

1 仮性球麻痺による開鼻声、構音障害が生じた患者に、経口摂取ができるか確認するため、最初に試す食事形態はどれか。

- a 水分
- b パン
- c 三分粥
- d 五分粥
- e 全粥

2 寝たきりになる原因として最も多いのはどれか。

- a 転倒骨折
- b 肺炎
- c 認知症
- d 悪性新生物
- e 脳血管障害

3 経腸栄養療法の適応となる疾患はどれか。

- a 肝硬変
- b 腸結核
- c 腸閉塞
- d 急性膵炎
- e 潰瘍性大腸炎

4 学校感染症において、感染症と登校を許可するまでの期間について正しい記載はどれか。2つ選べ。

- a インフルエンザ———解熱後2日経過するまで
- b 麻疹———解熱後2日経過するまで
- c 風疹———解熱後2日経過するまで
- d 水痘———すべての痂皮が消失するまで
- e 流行性耳下腺炎———耳下腺の腫脹の消失まで

5 敗血症性ショックの症候でないのはどれか。

- a 血圧低下
- b 体温上昇
- c 尿量減少
- d 徐脈
- e 頻呼吸

6 腎機能検査について正しい組合せはどれか。

- a Fishberg濃縮試験———尿pH
- b 腎血漿流量———血清クレアチニン
- c 糸球体濾過量———イヌリンクリアランス
- d 遠位尿細管機能検査———尿中 $\beta$ 2ミクログロブリン
- e 近位尿細管機能検査———パラアミノ馬尿酸ソーダ<PAH>クリアランス

7 陽圧換気の呼吸循環に対する影響で正しいのはどれか。

- a 腎血流の増加
- b 胸腔内圧の低下
- c 心拍出量の低下
- d 頭蓋内圧の低下
- e 静脈環流の増加

8 組合せて誤っているのはどれか。

- a ヘリコバクター・ピロリ———胃癌
- b エプスタイン・バーウイルス———上咽頭癌
- c ヒトパピローマウイルス———陰茎癌
- d サイトメガロウイルス———肺癌
- e B型肝炎ウイルス———肝細胞癌

9 原因物質と疾患との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a メチル水銀———肝がん
- b カドミウム———高血圧
- c ベンゼン———白血病
- d 6価クロム———肺癌
- e 鉛———気管支喘息

10 放射線照射による医原病でないのはどれか。

- a 白血病
- b 白内障
- c 皮膚癌
- d 皮膚炎
- e 肺気腫

11 膵臓について正しいのはどれか。

- a 膵液のpH値は約4である。
- b 膵は主に門脈からの血流をうける。
- c インスリンは腺房細胞で合成される。
- d 副膵管は大十二指腸乳頭に開口する。
- e ランゲルハンス島は内分泌組織である。

12 交通事故により搬送されてきた傷病者の尿写真を示す。考えられる病態を2つ選べ。

- a 気 胸
- b 肝損傷
- c 上腕骨骨折
- d 下腿骨骨折
- e 広範な筋挫滅



傷病者の尿

13 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 電離放射線によるがんの誘発は確定的影響である。
- b 電離放射線による白内障は晩期障害の一つである。
- c 電離放射線による奇形の誘発は妊娠初期におきやすい。
- d エックス線検査は月経開始後10日以内に行わない。
- e グレイ <Gy> は放射線防護のために用いられる線量の単位である。

14 電解質異常とその症状の組合せのうち誤っているのはどれか。

- a 高ナトリウム血症———昏 睡
- b 低ナトリウム血症———けいれん
- c 高カリウム血症———筋緊張
- d 低カリウム血症———脱 力
- e 低カルシウム血症———手指のしびれ

15 投影法人格検査はどれか。

- a Minnesota多面人格検査 <MMPI>
- b ウィスコンシンカードソーイングテスト <WCST>
- c 簡易精神症状評価尺度 <BPRS>
- d Mini-Mental State Examination <MMSE>
- e Rorschachテスト

16 前庭系の感覚器のうち、垂直方向の直線加速度を感受しているのはどれか。

- a 前半規管
- b 外側半規管
- c 後半規管
- d 卵形嚢
- e 球形嚢

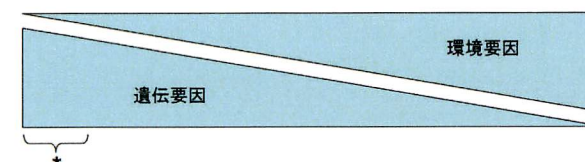
17 失神発作を来すのはどれか。2つ選べ。

- a 肺動脈狭窄症
- b 大動脈弁狭窄症
- c 僧帽弁閉鎖不全症
- d 三尖弁閉鎖不全症
- e 大動脈弁閉鎖不全症

18 疾患の発症要因としての遺伝子因子と環境因子の関係を図を示す。

\*印に該当するのはどれか。2つ選べ。

- a 血友病
- b 中皮腫
- c 交通外傷
- d 動脈硬化症
- e Huntington病



遺伝子因子と環境因子の関係図

19 脈管の走行について正しいのはどれか。

- a 閉鎖動脈は内陰部動脈から分かれる。
- b 臍動脈索は外腸骨動脈から分かれる。
- c 精管動脈は内腸骨動脈から分かれる。
- d 精巣動脈は内腸骨動脈から分かれる。
- e 下直腸動脈は腹大動脈から分かれる。

20 房水の流れについて正しいのはどれか。

- a 毛様体→後房→前房→瞳孔→線維柱帯
- b 毛様体→後房→瞳孔→前房→線維柱帯
- c 毛様体→前房→後房→瞳孔→線維柱帯
- d 毛様体→前房→瞳孔→後房→線維柱帯
- e 毛様体→瞳孔→前房→後房→線維柱帯

21 類白血病反応で出現し、最も大きな血球はどれか。

- a 骨髄球
- b 骨髄芽球
- c 前骨髄球
- d 桿状核好中球
- e 分葉核好中球

22 胎児血液について正しいのはどれか。

- a 有核赤血球数は成人より少ない。
- b 胎児赤血球の寿命は長い。
- c 胎児ヘモグロビンは酸素親和性が低い。
- d 妊娠中期は1/3が成人ヘモグロビンである。
- e 胎児血色素は17～20 g/dlである。

23 疾患と遺伝形式で正しい組合せはどれか。

- a Hunter病 ————— 常染色体劣性遺伝
- b Marfan症候群 ————— X染色体連鎖性劣性遺伝
- c 口唇・口蓋裂 ————— 多因子遺伝
- d 血友病 ————— X染色体連鎖性優性遺伝
- e メープルシロップ尿症 ————— 常染色体優性遺伝

24 優位半球の角回の障害による症候でないのはどれか。

- a 視覚性運動失調
- b 左右識別障害
- c 手指失認
- d 失計算
- e 失書

25 生後10か月の児に認められる反射はどれか。2つ選べ。

- a Babinski反射
- b 吸てつ反射
- c パラシュート反射
- d Moro反射
- e 緊張性頸反射

26 心肺機能停止状態の患者に対して医師の指示があっても救急救命士が行えない処置はどれか。

- a 電氣的除細動
- b アドレナリン投与
- c 胃洗浄及び胃内容物の吸引
- d 器具による気道確保、気管挿管
- e 乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保

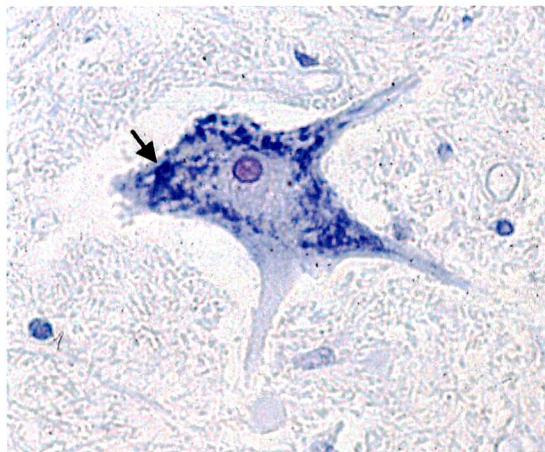
27 Bishopスコアの項目でないのはどれか。

- a 子宮口開大度
- b 頸管展退率
- c 先進部下降度
- d 頸管硬度
- e 破水の有無

28 図はニッスル染色により染め出された神経細胞を示している。

矢印で示される濃染物は次のどの細胞小器官に対応するか。

- a ミトコンドリア
- b 粗面小胞体
- c ライソゾーム
- d 中心体
- e ゴルジ装置



図

29 現在の日本の法律について正しい組合せはどれか。

- a 保健所の設置——医療法
- b 国民健康・栄養調査——健康増進法
- c 人工妊娠中絶——母子保健法
- d 臓器移植——死体解剖保存法
- e 公害の原因者負担の原則——公害対策基本法

30 医療施設について正しいのはどれか。

- a 診療所は患者の収容施設を持たない。
- b 精神科病院のほとんどは公的病院である。
- c 地域医療支援病院は、地域のかかりつけ医を支援する。
- d 病院のうち、100床以下の病院が半数以上を占めている。
- e 特定機能病院として承認されているのは医学部附属病院である。

31 妊婦で循環血液量が減少するのはどれか。

- a 双胎妊娠
- b 血液型不適合妊娠
- c 妊娠高血圧腎症
- d 妊娠糖尿病
- e 切迫早産

32 救命救急センターに搬送され、死亡が確認された症例について異状死でないのはどれか。2つ選べ。

- a 諸検査で診断がつかなかった。
- b 外傷性のくも膜下出血と診断された。
- c 急性心筋梗塞の治療中、心破裂を合併した。
- d 急性大動脈解離による心タンポナーデと診断された。
- e 交通外傷で搬入され、経過中に重度の肺炎を合併した。

33 国際生活機能分類（ICF）で誤っているのはどれか。

- a 機能障害（impairment）には精神障害が含まれる。
- b 国際障害分類（ICIDH）が改訂されてできたものである。
- c 生活の質（quality of life）の低下は障害による経済的困窮により導かれる。
- d 活動制限（activity limitations）とはADLに支障をきたしている状態である。
- e 参加制約（participation restrictions）とは身体機能の低下のため社会に参加できない状態のことである。

34 正しいのはどれか。

- a Leopold診察法2段で胎向がわかる。
- b Bishopスコアの最高点は10点である。
- c 妊娠24週以降は1週ごとに健診する。
- d 恥骨が胎児下降度の基準になる。
- e 児頭は第3回旋で屈曲位をとる。

35 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」でいう薬剤耐性緑膿菌感染症の診断に用いられる抗菌薬の組合せを示す。

正しいのはどれか。

- a アミカシン——イミベネム——バンコマイシン
- b アミカシン——イミベネム——シプロフロキサシン
- c アミカシン——クラリスロマイシン——シプロフロキサシン
- d イミベネム——クラリスロマイシン——シプロフロキサシン
- e イミベネム——シプロフロキサシン——バンコマイシン

36 直ちに専門施設への搬送を考慮するのはどれか。2つ選べ。

- a 右大腿屈側のⅢ度熱傷
- b 両上肢の浅在性Ⅱ度熱傷
- c 体表面積の30%のsunburn
- d 会陰部を中心とした深在性Ⅱ度熱傷
- e 小児の背部、両上肢の浅在性Ⅱ度熱傷

37 地域保健について正しいのはどれか。

- a 特定健康診査の実施責任は都道府県知事にある。
- b 介護老人福祉施設は家庭復帰のための施設である。
- c 特定健康診査の対象となる年齢層は40～74歳である。
- d 腹囲の測定を行う健康診断は特定健康診査のみである。
- e 地域包括支援センターは介護保険の施設サービスを提供する。

38 一次予防はどれか。

- a 糖尿病患者への食事指導
- b 新型インフルエンザ患者への投薬
- c 季節性インフルエンザ流行前の予防接種
- d 社会復帰をはかるための骨折治療後のリハビリテーション
- e がんに罹患し完全に寛解した人に対する転移の早期発見のための検査

39 わが国の死因順位で第10位までに入らないのはどれか。2つ選べ。

- a 老 衰
- b 結 核
- c 糖尿病
- d 腎不全
- e 慢性閉塞性肺疾患

40 WHOの提唱するプライマリヘルスケアの具体的業務に含まれないのはどれか。

- a 必要医薬品の確保
- b 高齢者福祉の充実
- c 安全な水の十分な供給
- d 一般的な疾病と傷害の適切な処置
- e 家族計画を含む母子健康サービス

41 生後30日の乳児。1か月健康診査を受けにきた。児は、在胎38週、出生時体重2,980g、Apgarスコア9点（1分値）で出生した。現在、栄養は完全母乳で1日に8、9回哺乳している。来院時、体重は3,700gであった。眼球結膜に黄染を認める。便は1日5、6回、緑黄色軟便～水様便で酸臭がする。母親は、黄疸、水様便、体重増加不良などに不安を抱えている。

今後の栄養法について最も適切な指導はどれか。

- a 人工栄養に代える。
- b 離乳食を始める。
- c 母乳栄養を続ける。
- d 無乳糖乳に代える。
- e 大豆乳に代える。

42 58歳の男性。ウイスキーのボトルを2本飲み干したのち急激な上腹部痛を訴え来院した。血清アミラーゼ値は2,560 U/l（正常 37～125 U/l）であった。入院加療していたが翌日の血液検査所見では、血小板数4.5万、PT-INRは1.83（正常1.00以下）、FDP値は120 $\mu$ g/ml（正常4.9 $\mu$ g/ml以下）を示した。出血症状は認めていない。

次に行うべき処置として正しいのはどれか。

- a 脾切除術
- b 利尿薬の投与
- c 低分子ヘパリンの投与
- d 経皮経肝胆道ドレナージ
- e 内視鏡的逆行性膵管造影

43 50歳の男性。開口障害を主訴に来院した。自動車修理工場に勤務しており、錆びたネジをくわえながら仕事をしていることが多い。1週間前から微熱が続き、昨日から開口障害と嚥下障害も出現した。意識は清明。顔貌はやや苦悶様である。

直ちに行うべきことはどれか。2つ選べ。

- a 患者の隔離
- b 自宅の消毒
- c 保健所への届出
- d 破傷風トキソイドの投与
- e 抗破傷風ヒト免疫グロブリンの投与

- 44 45歳の男性。頸部リンパ節生検で非ホジキンリンパ腫と診断された。リンパ節の腫瘍細胞の表面抗原は、CD5、CD19、CD20が陽性、CD3、CD4、CD8、CD25が陰性であった。HBc抗体陽性、HCV抗体陰性。リツキシマブ（抗CD20抗体）を含む多剤抗ガン薬治療6コース施行を予定した。

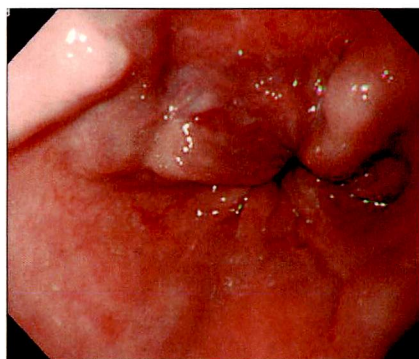
今後、ウイルス再活性化により起こりうるのはどれか。3つ選べ。

- a 認知症
- b 劇症肝炎
- c 帯状疱疹
- d 進行性多巣性白質脳症
- e 亜急性性連合性脊髄変性症

- 45 66歳の男性。数日前から黒色便が出現していたが、本日突然吐血を来したため、救急車で搬送された。来院時の上部消化管内視鏡写真を示す。

内視鏡治療として正しいのはどれか。

- a 内視鏡的結紮術
- b レーザー照射術
- c 粘膜下層剥離術
- d エタノール局注法
- e ヒータープローブ焼灼



上部消化管内視鏡写真

- 46 57歳の男性。血液型はA型Rh(+)。10年前に糖尿病を指摘されていたが放置していた。最近、全身倦怠感と下肢の浮腫がひどくなったため来院。受診時血清クレアチニン値が6.7 mg/dlであった。内科医に透析導入の可能性についても話をされ、泌尿器科において腎移植について話を聞きたいと、血液型O型Rh(+)の55歳の妻と、血液型A型Rh(+)の85歳の母を伴い来院した。

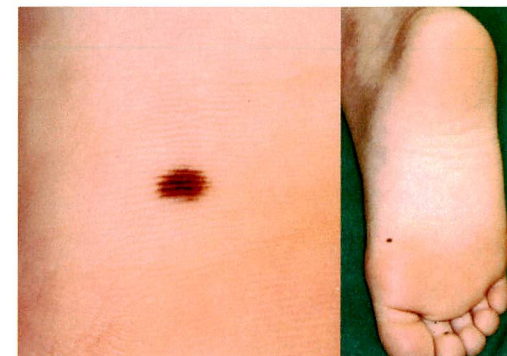
この男性にとっての腎移植について正しいのはどれか。

- a 妻からの腎移植は法律違反なので出来ない。
- b 糖尿病があるため、腎移植は適応にならない。
- c 妻からの移植は血液型が異なるので出来ない。
- d 高齢者の母からの移植は長期正着が望めない。
- e 透析導入前のため法的に腎移植は出来ない。

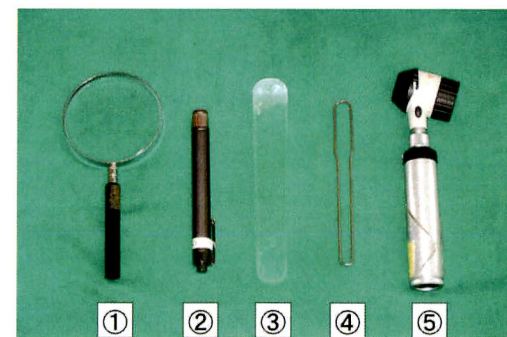
- 47 8歳の男児。右足底の色素斑を主訴に来院。約2年前に気がついたが放置していた。しかし、最近テレビや新聞などで見て悪性黒色腫のことを知り、心配になったため来院した。右足底の写真を示す。

検査器具の写真を示す。診断に有用なのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



右足底の写真



検査器具の写真

- 48 35歳の男性。20歳時に統合失調症を発症し、過去に3回の入院歴がある。ここ数年は症状が安定し就労していたが34歳時に幻覚妄想が再燃し4回目の入院となった。入院から6か月が経過し状態は安定し日常生活も自立していることから主治医は自宅への退院を考えているが、患者は対人関係をうまくとることができないため、一般社会ですぐに働くのは困難と判断している。

退院後、患者が利用するのに適切なのはどれか。

- a デイケア
- b 援護寮
- c グループホーム
- d 訪問リハビリテーション
- e ショートステイ

49 45歳の男性。原子力発電所職員。原子炉の放射線漏れにより全身被ばくし約2時間後に搬送された。被ばく線量は4.0 Gyと推定された。悪心、嘔吐、軽度の発熱および頭痛を認めるが、意識は清明である。

この患者のエックス線被ばくによる早期障害を評価するために有用な検査はどれか。2つ選べ。

- a リンパ球数
- b 赤血球数
- c 染色体分析
- d 視力検査
- e 頭部CT

50 28歳の女性。6か月前から右足第1指の爪周囲に疼痛を伴った腫脹がみられた。その後、次第に爪周囲が盛り上がり写真のようになった。

正しいのはどれか。

- a 不良肉芽を認める。
- b 肥厚性癬痕である。
- c ケロイドに移行する。
- d 一次治癒が見込まれる。
- e 組織の炎症所見は認められない。



写真

51 28歳の初産婦。妊娠38週に腹痛と出血を主訴に受診した。内診所見は子宮口開大4 cm、展退60%、児頭下降度sp±0、子宮口の位置は中央で硬度は中等度軟であった。Bishopスコアは何点か。

- a 4
- b 6
- c 8
- d 10
- e 12

52 10か月の乳児。2日前からの嘔吐と下痢、傾眠傾向を認めて救急搬送された。来院時、痛み刺激にわずかに反応するが、泣き声は弱々しい。呼吸音は正常で、陥没呼吸や鼻翼呼吸は認めない。顔色は蒼白で、呼吸数45/分。心拍数170/分。血圧は80 mmHgであった。

考えられる病態はどれか。

- a 心原性ショック
- b 閉塞性ショック
- c 敗血症性ショック
- d 神経原性ショック
- e 循環血液量減少性ショック

次の文を読み、53～55の問に答えよ。

68歳の男性。右利き、転倒を主訴に来院した。

現病歴：4年前から歩行時に転倒するようになり、2年前から体のこわばりを自覚し、動作も緩慢を家人に指摘されたため受診した。手指振戦はない。

既往歴、生活歴、家族歴：特記すべきことはない。

現 症：意識は清明であるが、表情は乏しく、瞬目も低下している。小声である。瞳孔は3mm、左右同大、対光反射迅速。眼球運動は垂直注視が障害されているが、前庭眼反射は保たれている。側方注視制限はない。眼振もない。四肢で筋固縮を認めるが、頸部により強い固縮を認める。振戦は認めない。深部反射は異常なく、Babinski反射も陰性。動作は緩慢であるが、協調運動障害はない。歩行は不安定で、姿勢反射障害を認める。体温36.4℃、脈拍60/分。血圧120/70 mmHg。その他異常なし。

検査所見：尿所見：蛋白（-）、糖（-）。

血液所見：赤血球450万、Hb12.5 g/dl、Ht35.5%、白血球8,400、血小板17万、血液生化学：血糖117 mg/dl、総蛋白7.5 g/dl、尿素窒素13 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、総コレステロール220 mg/dl、トリグリセリド140 mg/dl、総ビリルビン0.2 mg/dl、AST24 IU/l、ALT32 IU/l、LD147 IU/l（基準：119-229）、CK136 IU/l（基準：60-247）

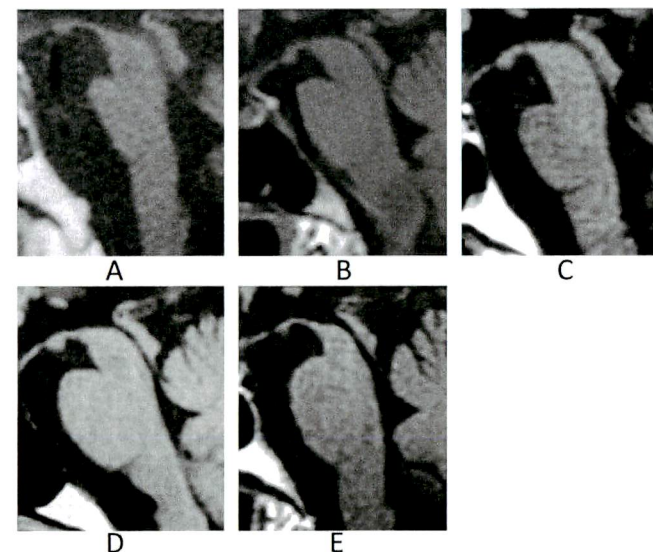
53 本患者で認める神経学的所見はどれか。

- a 核下性眼球運動障害
- b 核上性眼球運動障害
- c 核性眼球運動障害
- d 動眼神経麻痺
- e 眼球運動失行

54 種々の神経疾患の頭部MRI T1強調画像矢状断を示す。

本患者に特徴的な画像はどれか。

- a A
- b B
- c C
- d D
- e E



頭部MRI T1強調画像矢状断

55 本疾患に特徴的な所見はどれか。

- a 認知症を合併する。
- b L-dopaが有効である。
- c 後頭葉の血流が低下する。
- d MIBG心筋シンチで心筋の取り込みが低下する。
- e 頭部MRI T2強調画像で、被殻に高信号域を認める。

次の文を読み、56～58の問いに答えよ。

18歳の男子。下血を主訴に来院した。腹痛や排便時の疼痛は認めなかった。

現病歴：2か月前より、時々排便時に出血（新鮮血）を認めたが、腹痛等がないため放置していた。

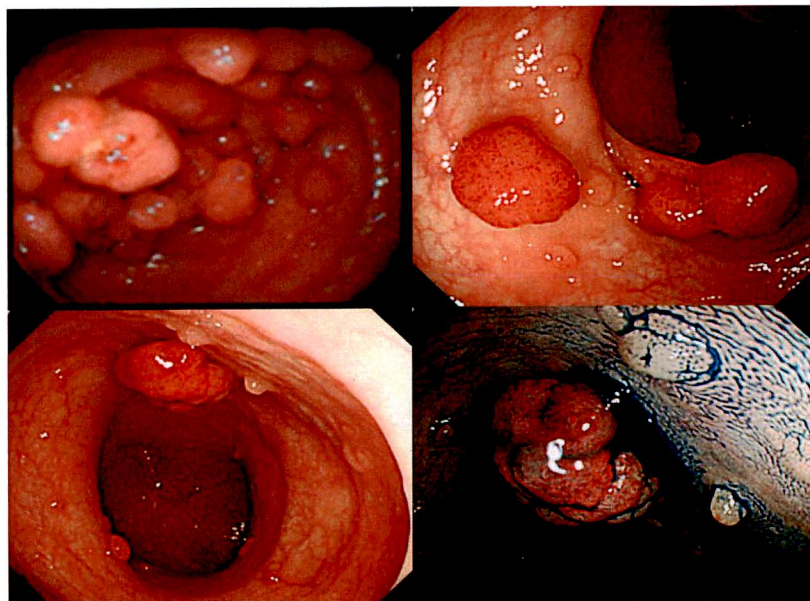
既往歴：特記すべきことなし

家族歴：父 健康、母 26歳時大腸癌で死亡。17歳、15歳、14歳の3人の弟がいるが、検査歴なし。

母方の家系において35歳時、37歳時に2人大腸癌で死亡している。同家系で、十二指腸乳頭癌の患者もいる（詳細不明）。

現 症：身長172cm、体重58kg（体重減少なし）。体温36.8℃。脈拍72回/分、整。血圧110/62。眼  
 瞼結膜の貧血なし。腹部は平坦で、腸蠕動音は正常である。打診と触診で異常所見は認め  
 ない。

検査所見：血液所見：赤血球 425万、Hb 14.2 g/dl、Ht 42.7%、白血球 5,200、血小板 28万。血液  
 生化学所見：総蛋白 7.5 g/dl、アルブミン 4.1 g/dl、AST 18 IU/l、ALT 22 IU/l。免疫  
 学所見：CRP <0.1 mg/dl、CEA 4.9 ng/ml（基準 5.0以下）。大腸内視鏡検査写真を示す。



大腸内視鏡検査写真

56 疑われる疾患はどれか。

- a 潰瘍性大腸炎
- b クローン病
- c Cronkhite-Canada症候群
- d 家族性大腸腺腫症
- e Peutz-Jeghers症候群

57 この疾患で正しいのはどれか。

- a 遺伝形式は明らかでない。
- b 手足に色素沈着を認める。
- c ステロイド治療が第1選択となる。
- d 蛋白漏出性胃腸症の併発が見られる。
- e デスモイド腫瘍を合併するものをGardner症候群と言う。

58 患者への説明として、正しいものはどれか。

- a 遺伝性疾患ではないので、兄弟の検査をする必要はありません。
- b 他の消化管の検索も行なう必要があります。
- c 大腸全摘術を行えば、今後癌の合併はありません。
- d 手術よりも、内科的治療を先行しましょう。
- e 指の変形が強くなることがあります。

次の文を読み、59～61の問に答えよ。

72歳の男性。慢性閉塞性肺疾患で通院中である。長時間作用性抗コリン薬と長時間作用性 $\beta_2$ 刺激薬を吸入している。最近、咳嗽、喀痰は続いているが、急性増悪はない。しかし、安静時でも呼吸困難を自覚するようになった。呼吸機能検査は肺活量 3,360 ml、予測肺活量 3,500 ml、1回換気量 540 ml、努力肺活量 3,000 ml、1秒量 840 ml、予測1秒量 2,800 ml。安静時の室内気での動脈血液ガス分析は、pH 7.36、 $\text{PaCO}_2$  50 Torr、 $\text{PaO}_2$  53 Torr、 $\text{HCO}_3^-$  30 mEq/lであった。

59 1秒率はどれか。

- a 24%
- b 25%
- c 28%
- d 30%
- e 34%

60 薬物療法を追加する時、適切なものはどれか。

- a 鎮咳薬
- b 抗菌薬
- c テオフィリン
- d 経口ステロイド薬
- e 吸入ステロイド薬

61 在宅酸素療法も導入することになり、1 l/分より酸素投与を開始した。

この酸素投与量が適切であるかを確認するために適当な検査はどれか。

- a 心電図検査
- b スパイロメトリ
- c ポリソムノグラフィ
- d 動脈血液ガス分析
- e パルスオキシメーター

次の文を読み、62～64の問に答えよ。

32歳の1回経産婦が妊娠30週3日に下腹部痛と出血を主訴に入院した。

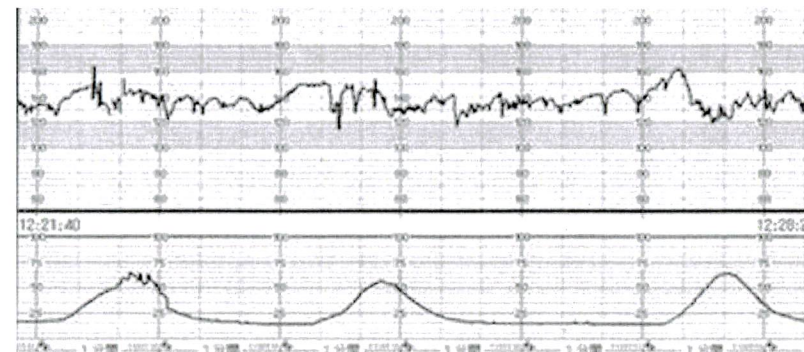
入院時の内診所見は先進部が児頭で下降度はSP-1、子宮口は3 cm開大し展退度は60%、子宮頸管長14mm、出血と胎胞を認め、腔分泌物のBTB液検査では青変は認められなかった。

血圧 130/78 mmHg、尿蛋白(－)、尿糖(－)

血液検査所見：WBC 15,000、Hb 9.5 g/dl、血小板 20 万、CRP 1.2 mg/dl。

超音波検査所見：胎児推定体重 1,550g、AFI(羊水インデックス) 12cm。

入院時の胎児心拍数陣痛図を示す。



胎児心拍数陣痛図

62 最も考えられる疾患はどれか。

- a 前置胎盤
- b 前期破水
- c 切迫早産
- d 子宮内発育遅延
- e 常位胎盤早期剥離

63 追加すべき検査はどれか。

- a MRI
- b 凝固・線溶検査
- c 子宮頸管細菌培養
- d 血液型・交差試験(クロスマッチ)
- e 臍帯血流速度波型分析

64 行うべきことはどれか。

- a 輸血
- b 帝王切開
- c オキシトシンの投与
- d インドメサシンの投与
- e 塩酸リトドリンの投与